

## 市指定 石造宝篋印塔

## 伝土肥元頼墓

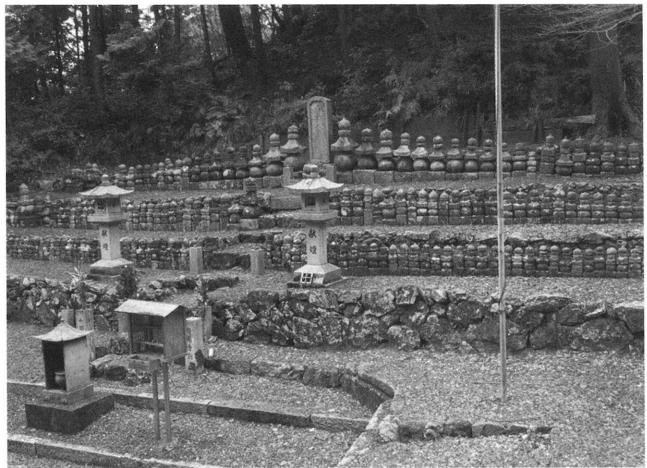
**蓮華寺**(米原市番場)の境内に鎌刀城主・土肥三郎元頼の墓と伝えられている宝篋印塔があります。元頼は一向上人に帰依して蓮華寺を再興した人物で、正応元年(1288)9月18日逝去して、蓮華寺の墳墓に葬られたと伝えられています。宝篋印塔には銘文等が確認できず、塔の様式は、元頼の年代とくらべて新しいものである可能性があります。

蓮華寺は、約1300年前に聖徳太子が創建し、法相宗の寺院として法隆寺と称していましたが、建治2年(1276)落雷により焼失しました。その後、弘安7年の夏に、一向上人(法然上人の教えのうえの曾孫)が諸国を巡る旅の杖を留めて、この地で念佛を広く唱えて民衆を教え導かされました。当時のこの地の領主であった土肥元頼も深く一向上人の教えに従い、焼失した堂塔を再興し「八葉山蓮華寺」と改称して一向上人を開山上人に迎えました。また、歴代天皇の信仰も厚く、花園天皇(1308~1318)より勅願寺としての勅命の許しを賜り、寺紋として菊の紋を下されました。鎌倉時代から一向派の大本山として一大念佛道場となり、江戸時代には時宗一向派となりましたが、昭和17年に浄土宗鎮西派に帰属して、浄土宗本山として現在に至ります。





蓮華寺勅使門



北条仲時主従の墓

### 北条仲時主従の墓

元弘3年(1333)、京都を追われ鎌倉へ向かう六波羅探題  
北条仲時が、行く手を京極道脅らに阻まれ、総勢430人余り  
がここで自刃しました。五輪塔が整然と並ぶ墓地と、氏名  
や年齢を記した「陸波羅南北過去帳」(重文)が伝わってい  
ます。

### 殿屋敷遺跡（番場）

発掘調査で、ほつたてばしらたてもの掘立柱建物3棟と9基の井戸跡、溝などが  
見つかりました。これらは、大きく13世紀末～15世紀初頭  
のもので、さらに3つの時期に分けられます。

出土品は、土師器・瓦質土器・国産陶器・輸入陶磁器・  
木製品・石製品・金属製品などがあり、全体のなかで輸入  
青磁が占める割合が、当時の一般の集落遺跡と比較すると  
大きいようです。また、「物差し」が出土しているのも注  
目されます。

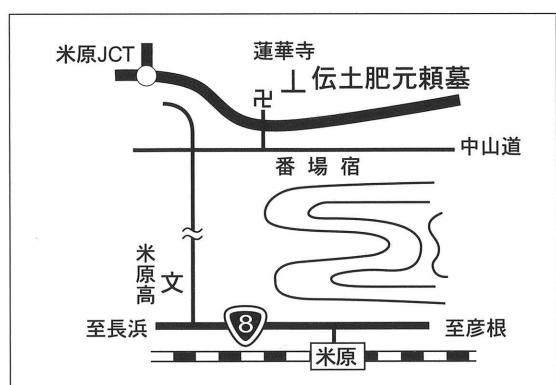
東山道（中世東海道）に接した流通拠点の番場は、一般  
農村集落よりもきわめて町的、都市的な性格であったよう  
です。発見された遺構については、調査地南方の土肥氏館  
跡の関連施設や、土肥氏の家臣団クラスの屋敷、地域の有  
力者や宿場施設などが想定されています。



鎌刃城跡主郭虎口



殿屋敷遺跡遺構検出状況



### 市指定 土肥元頼の墓

■ 所在地 滋賀県米原市番場（蓮華寺境内）

■ アクセス JR東海道線米原駅下車。湖国バス醒ヶ井線  
「蓮華寺下」下車 徒歩約10分。

### 米原市教育委員会

〒521-0242 滋賀県米原市長岡1050-1  
TEL.0749-55-8020 FAX.0749-55-4556

平成23年度 埋蔵文化財活用事業